

実証内容と成果

取組内容

「佐賀モデル」 ……地域クラブへの展開に向けた、無理なく新しい環境に移れる土台づくり● **生徒が「より主体的に」活動する！**

先生との対話を通して、部内の役割や練習時間、練習内容等を**自己決定する機会を保障**し、活動の内容や量を**調整する力**を育成する。

● **活動時間を「週8時間程度」に！**

ただ時間を短縮するのではなく、**限られた時間をどう使うかを生徒自身が考える文化**を育てることを重視

● **指導観の転換**

今

文化づくり



次



将来

- ☑ 部活動の適正化
（佐賀モデル全18中学校試行）

- ☑ 地域クラブ活動体制整備
（実証事業）

- ☑ 新基本方針による運用

- ☑ 地域クラブの認定
（受け皿整備）

無理のない
地域展開へ

実証内容と成果

生徒主体の部活動に向けて、各校で工夫された主な取組例

●活動の目的・ポイントを最初に示す

- ・新しいメニューを行う際、最初に目的やポイントの説明
- ・何を意識して取り組むかを共有した上で活動

●選択肢を示した上で生徒に委ねる

- ・メニューや進め方について、いくつかの選択肢を提示
- ・その中から生徒が選び、話し合って決定する形

●顧問は我慢して見守り、必要な場面で関与

- ・日常的には生徒の判断を尊重
- ・安全面や方向性が必要な場面で助言・修正

●限られた時間の使い方を共に考える

- ・活動時間を踏まえ、目標設定や優先順位を確認
- ・「今日は何を大切にするか」を考えさせる関わり

●つまづいた場面で問い返し・示唆を行う

- ・思うように進まないときは、顧問がすぐに答えを出さず、生徒の考えや思いを引き出す問いかけ

上記は、顧問アンケート自由記述欄の記載やヒアリングをもとに、生徒主体の取組における主な関わり方の傾向を整理したもの

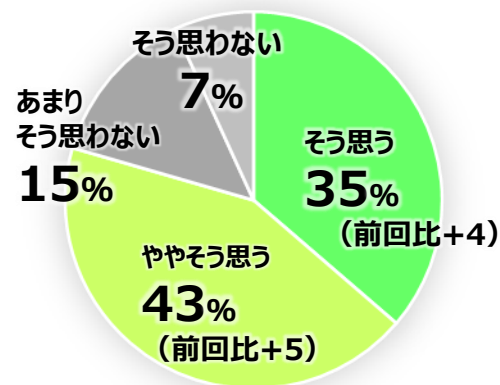
実証内容と成果

アンケート結果・生徒/顧問の声

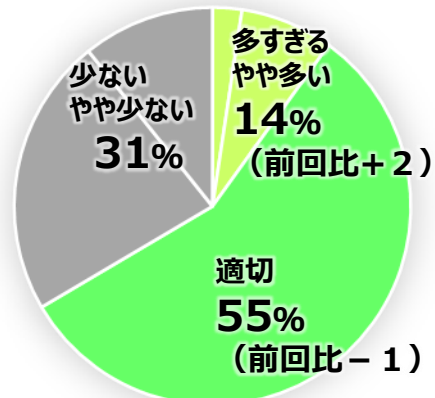
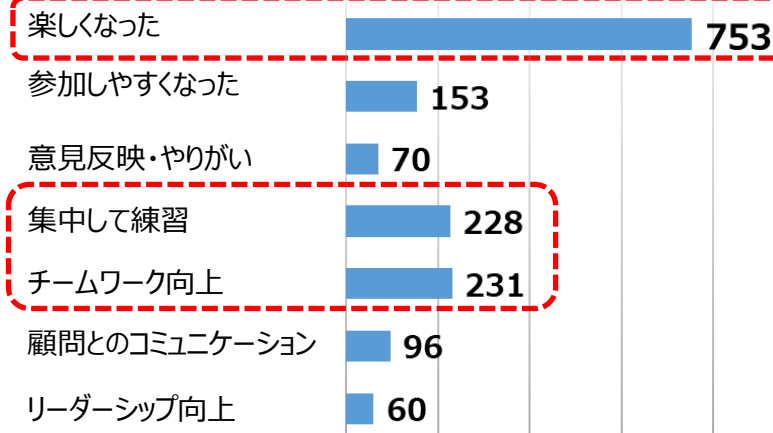
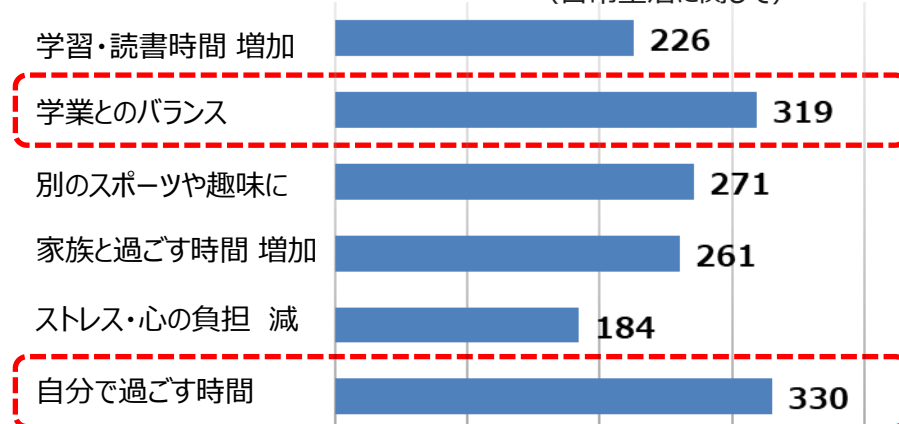
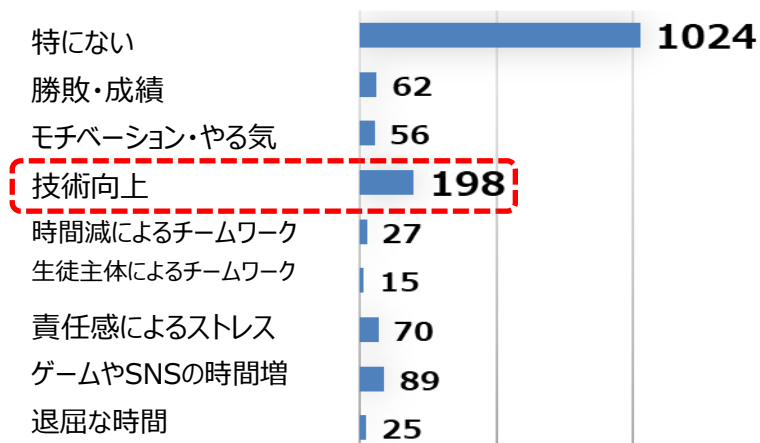
佐賀市立中学校全18校対象

●アンケート結果（部活動加入の中学1・2年生 n=1591） R7.12月実施

Q.今後も佐賀モデルについて、取り組みたいと思うか。



Q.佐賀モデルの活動時間（1週間あたり8時間程度）は生徒にとって適切だと思うか？

Q.佐賀モデルに取り組む前と後で最もプラスになったと思うことは？
（部活動に関して）Q.佐賀モデルに取り組む前と後で最もプラスになったと思うことは？
（日常生活に関して）Q.佐賀モデルに取り組む前と後で最もマイナスになったと思うことは？
（部活動に関して）

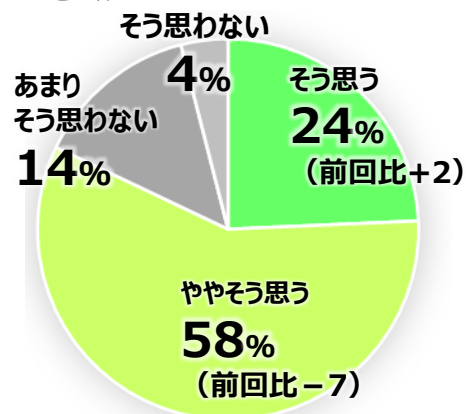
実証内容と成果

アンケート結果・生徒/顧問の声

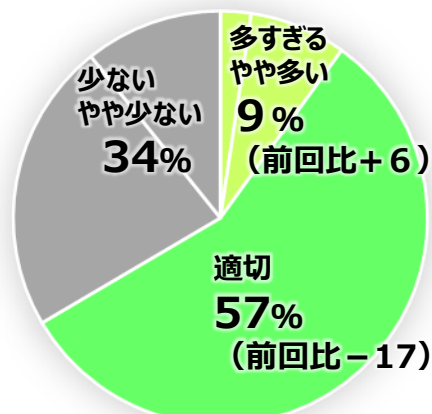
佐賀市立中学校全18校対象

●アンケート結果（部活動顧問 n=251） R7.12月実施

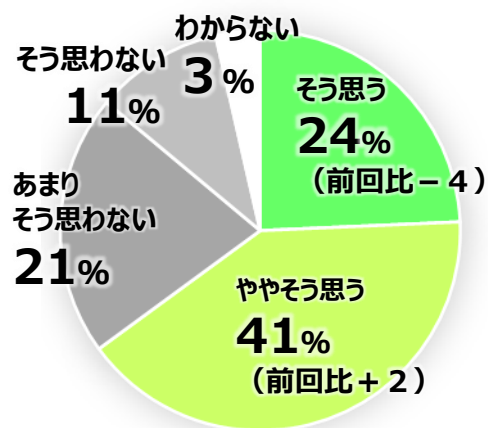
Q.今後も佐賀モデルについて、取り組みたいと思うか。



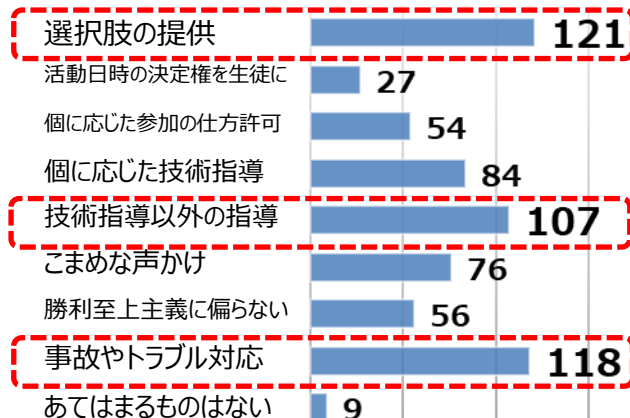
Q.佐賀モデルの活動時間（1週間あたり8時間程度）は生徒にとって適切だと思うか？



Q.部活動に係る時間外勤務は減ったか？



Q. 佐賀モデルの考え方で顧問の先生（指導者）が担う役割は？（複数回答）



●生徒/顧問の声

生徒① 主体的に考える場面が増えた

- ・練習内容や進め方について、話し合う場面が増えた
- ・自分の意見を出すことを求められるようになった

生徒② 納得感・生活バランスがよくなったという声

- ・自分たちで決めたので、前より納得して取り組めている
- ・家で過ごす時間や勉強の時間を確保しやすくなった

生徒③ 不安の声

- ・自分で考えることが難しいと感じる
- ・技術・パフォーマンスが低下する

顧問① 生徒への関わり方が変化した

- ・指示する場面が減り、生徒に任せる場面が増えた
- ・対話を重視するようになった

顧問② 指導・運営上の難しさ

- ・生徒に任せる範囲の見極めが難しい
- ・生徒、保護者共に意識の差が大きい（二極化）

顧問③ 今後に向けた整理の必要性

- ・時間外前提の土日の大会やリーグ戦が多すぎる
- ・指導したい教員が地域で指導できる環境整備を

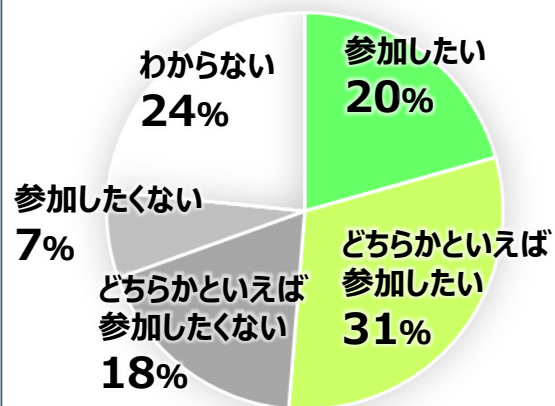
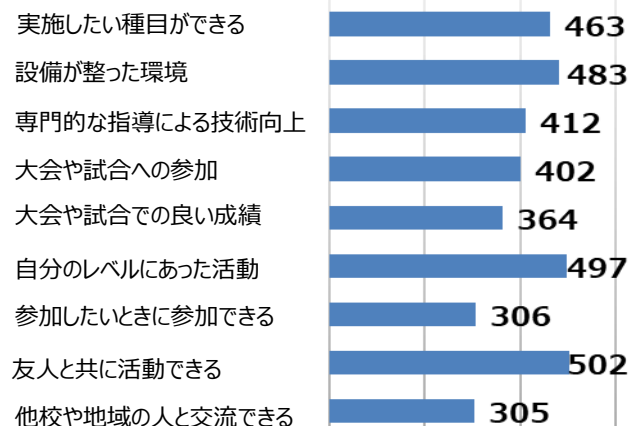
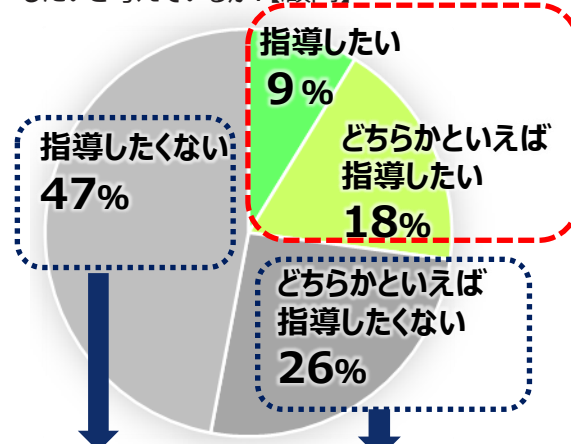
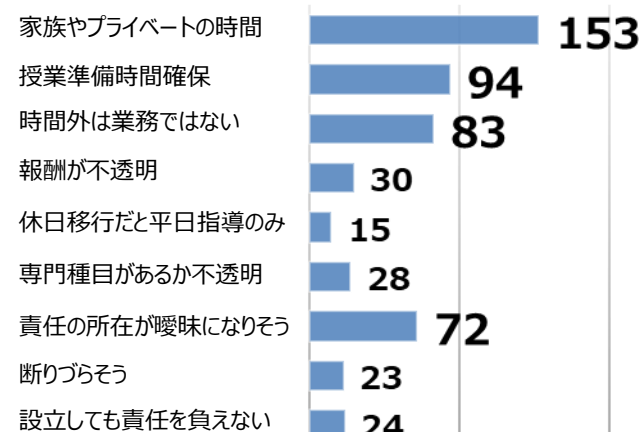
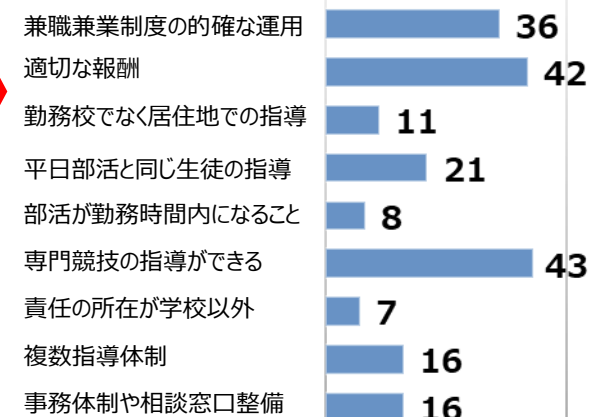
上記は、生徒・顧問アンケート自由記述欄の記載内容をもとに、主な傾向を要約したもの

実証内容と成果

アンケート結果・生徒/顧問の声

佐賀市立中学校全18校対象

●アンケート結果（部活動加入の中学1・2年生 n=1591、部活動顧問 n=251） R7.12月実施

Q.今行っている部活動以外に、地域クラブ動
に参加したいと思いますか？【生徒】Q. 部活動以外の選択肢としての認定地域クラブに
期待することは？【生徒】（複数回答）Q. 認定された地域クラブの指導者として指導
したいと考えているか？【顧問】Q. 認定地域クラブで指導したくない理由は？【顧問】
（複数回答）Q. 認定地域クラブで指導しやすくするために必要な
環境整備は？【顧問】（複数回答）

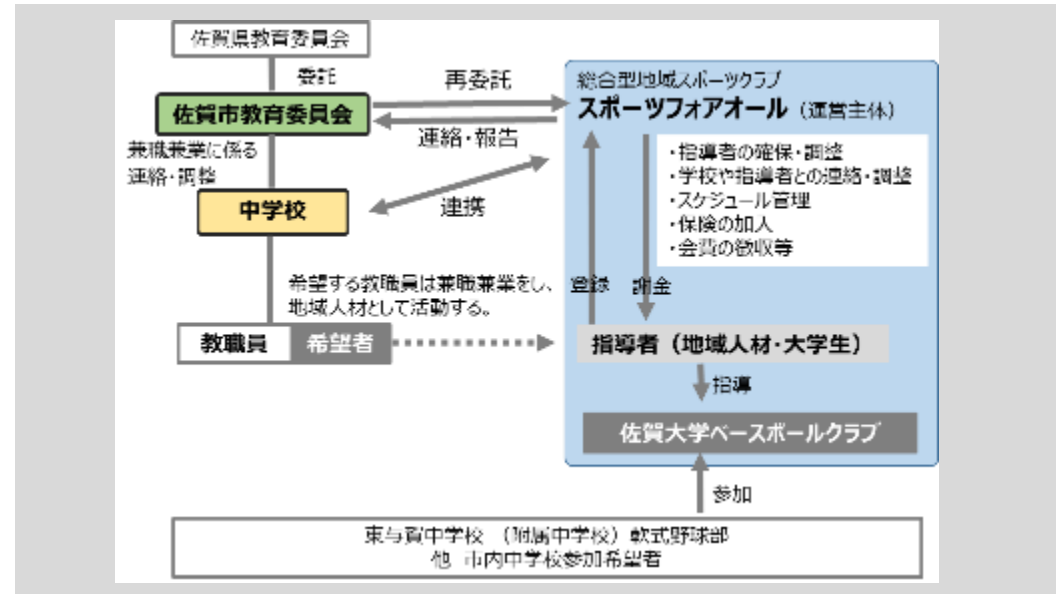
実証内容と成果

主な取組

●佐賀大学ベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	特定非営利活動法人 スポーツフォアオール
期間と日数	4月1日～1月30日 月12～15回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員、元中学校外部指導者、 大学生、小学校教員、大学教授
活動場所	佐賀大学グラウンド
主な移動手段	自転車／保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	48,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営責任者 1名

役割：指導者の確保・調整、活動場所の確保・調整、財務管理、事務手続き 等

●指導者（主） 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●指導者（副） 4名（うち1名は運営責任者）

役割：活動において、指導者（主）の補助として、指導を行う

実証内容と成果

取組内容

取組事項

- 兼職教員・学生ボランティアとの協働指導体制
- 独自の「育成リーグ」の創設
 - ・勝敗より成長を重視した独自ルールで運営。
- 理学療法士による測定・トレーニング指導
 - ・可動域評価、傷害予防、体の使い方の最適化
- 管理栄養士による栄養講座
 - ・成長期アスリートの食事を学ぶ機会を提供
- 大学教授・学生による動作解析講習（モーションキャプチャ）
 - ・フォーム改善・けが予防につながる科学的指導を実践。

11/22 今週の予定
(土)

育成リーグ

Xチーム

会場：光野中学校
8:30 佐大BC 大和
10:00 佐大BC 稲塚

Yチーム

会場：伊賀中学校
8:30 佐大BC 津田中
10:00 佐大BC 神崎千代田B

Zチーム

会場：上城中央公園G
10:00 佐大BC 三後藤1B
11:30 佐大BC 三後藤1A

育成リーグは3チームに分かれての活動となります
（混成リーグ）

取組の成果 科学に基づく学びが子どもの主体性を高める

従来の“部活の延長線ではなく、“科学×大学×安全”が結びつく新しいスポーツ環境としての“価値”

- 大学の科学的知見を直接学ぶクラブ環境
 - ・子どもが「理由を理解したうえで改善する」姿が生まれ、主体的な学びが加速。
- 動作解析・理学療法士・管理栄養士による専門支援
 - ・けが予防と競技力向上を結びつけ、安全性と質の両立が進んだ。
- 独自ルールの「育成リーグ」（指導者が指示をしない）
 - ・「やらされる活動」から「学びを楽しむ活動」へ変容しつつある。

今後の取組における課題

- 学校部活動との併存期における募集方法
 - ・実証2年目となり、校区を越えた“誰でも参加できるクラブ”へと募集形態を拡大したが、学校部活動側から「部員を取られた」という誤解が生じる。
- 附属中学校母体ゆえの制度整合性の課題
 - ・市の地域クラブ認定要綱や公立中学校基本方針（ガイドライン）との整合が必要だが、附属中をベースとした独自の認定要件もあるため、運用面でのすり合わせが必要。
- 併存期の広報・連携の難しさ
 - ・地域クラブと学校部活動の違いが十分に周知されておらず、移行期特有の誤解が残る。

課題への対応方針

- 新たに策定される市ガイドラインに基づいて、学校部活動と地域クラブの棲み分けを明確にし、募集方法・広報方法のガイドラインを共有。
- 附属中も含めた「市全体の公教育圏」での位置付けを明確化し、市の地域クラブ認定要綱との整合性を確保。
- 学校現場・保護者へ科学的指導の価値やクラブの役割を発信
 - ・ youtu.be/HNdAC_tqBO4
- 育成リーグを地域全体のモデルとして発信し、地域クラブの質向上に還元する。

実証内容と成果

参考資料



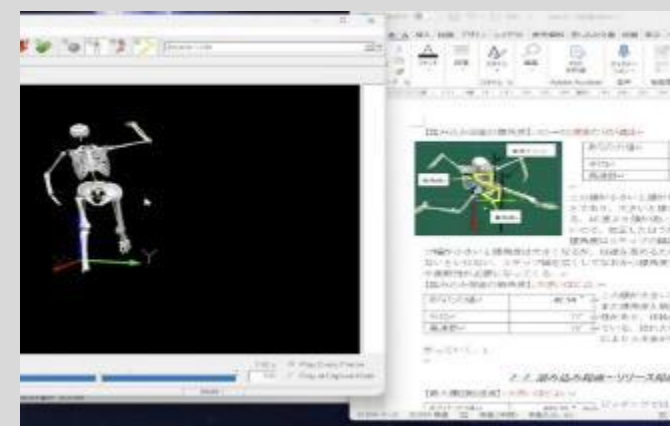
【クラブ主催の栄養学講座（クラブ員・保護者・指導者対象）】



【クラブ主催の投球講座（クラブ員・保護者・指導者対象）】



【理学療法士による体力測定】



【運営責任者（大学教授）による投球動作解析】

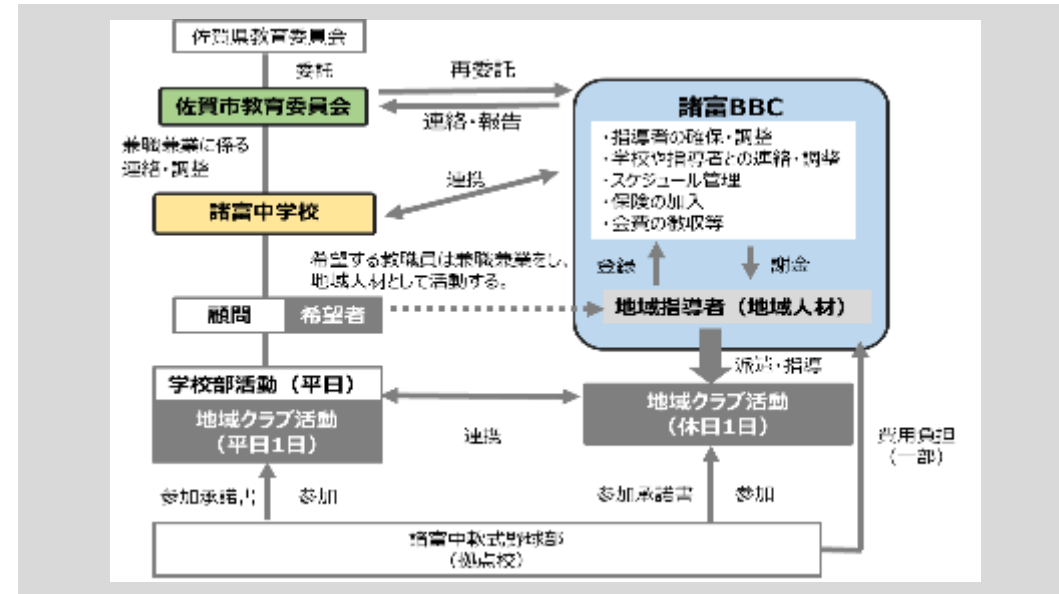
実証内容と成果

主な取組

●諸富ベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	諸富ベースボールクラブ
期間と日数	4月1日～1月30日 月4～6回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員、元中学校外部指導者、 大学生、元高校野球監督
活動場所	諸富中学校グラウンド
主な移動手段	自転車／保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営スタッフ 5名

役割：指導者の確保・調整、活動場所の確保・調整、財務管理、事務手続き 等

●指導者（主） 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●指導者（副） 4名

役割：活動において、指導者（主）の補助として、指導を行う

実証内容と成果

取組内容

取組事項

- 未就学児も含めた野球フェスタを町スポーツ協会協賛で開催
- 少年野球チーム×中学生クラブによる合同体験会
・地元高校球児・アマ選手・兼職教員が参加
- 理学療法士による専門指導（5回）を実施
（県スペシャルコーチ派遣）



野球フェスタちらし

取組の成果

地域全体で子どもを育てるスポーツ文化の再生

学校部活動中心では難しかった“地域×多世代×文化再生”を実現する新しいスポーツ環境としての“価値”

- 未就学児～中学生～高校生～大人までが関わる野球フェスタ開催
 - ・地域でスポーツが循環する仕組みが生まれつつある。
- 高校球児やアマチュア選手が指導に参加し
 - ・“子どもが子どもを育てる”野球の町諸富ならではのつながりが再構築。
- 理学療法士による安全指導が標準化
 - ・けが予防・健康づくりを重視する“地域スポーツの新しい価値観”が浸透し始めた。

今後の取組における課題

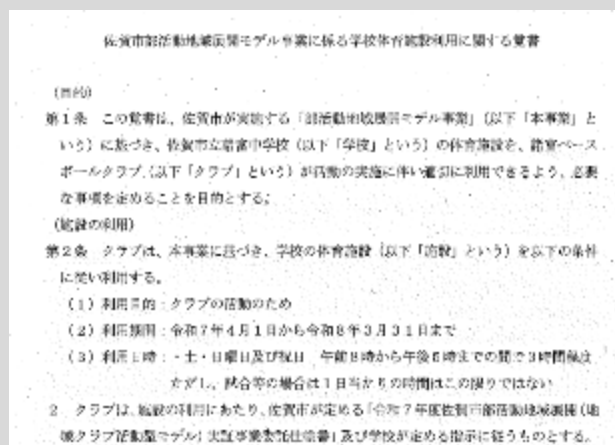
- 野球以外も含めた“総合型地域スポーツクラブ”への移行準備。
 - ・現在は軟式野球部の受け皿として機能しているが、将来的には複数競技を包含する総合型化を検討。
- 指導者層の確保・体系化
 - ・OB高校生・アマ選手・兼職教員が参加しているものの、安定的な指導者体制の構築が継続課題。
- 自走可能な財源確保
 - ・参加者の経済的負担を可能な限り軽減するための継続的な自主財源の獲得。

課題への対応方針

- 野球以外の競技指導者も含めた“地域指導者バンク”の整備と役割分担の明確化。
- 町内関係団体と協働し、“多世代参加型スポーツ環境”として総合型クラブへの移行準備を進める（長期ビジョン）。
- トレーナー派遣・安全管理・普及活動など、地域一体で支える運営モデルを構築。
- チームブランディング
 - ・地域住民や子どもたちへの周知を進める。協賛企業から定期協賛金をいただき、助成金に頼らないチーム運営を確立していく。

実証内容と成果

参考資料



【学校体育施設利用に関する調整(学校↔クラブ)】



【野球部OB(高校生・アマチュア選手)による指導】



【地域クラブ主催の野球フェスタ(町内未就学児～中学生対象)】



【理学療法士による専門指導】

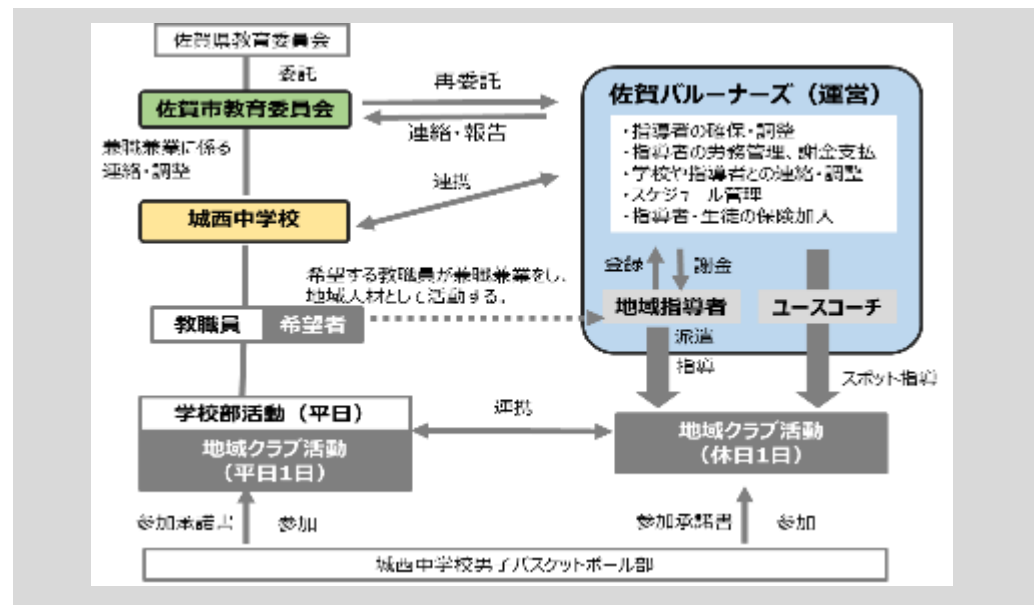
実証内容と成果

主な取組

●佐賀B・WEST 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	株式会社佐賀バルナーズ
期間と日数	10月1日～1月30日 月4～6回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員、理学療法士
活動場所	城西中学校体育館
主な移動手段	自転車／保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営スタッフ 2名

役割：財務管理、事務手続き、スポット指導 等

●指導者（主） 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●指導者（副） 2名

役割：活動において、指導者（主）の補助として、指導を行う

実証内容と成果

取組内容

取組事項

- 元プロ選手（ユースアカデミーコーチ）によるスポット指導
- 県SSP所属選手・県協会強化部長のスポット指導
- スポーツ練習アプリ（AIスマートコーチ）導入
 - ・トップ選手動画との比較分析
 - ・自主練メニューの自動生成
 - ・指導者不在時の学びの保障
- プロチームアカデミーの運営ノウハウの活用
- 冬季の平日夕方の地域クラブ活動（17:30～19:30）



スポーツ練習アプリの活用



SSP選手による練習会

取組の成果

プロチーム×ICT×学校が連携する新しい活動モデル

学校部活動中心では難しかった“プロ×ICT×自律学習”を実現する新たなスポーツ環境としての“価値”。

- プロ・SSP選手・強化部との接点
 - ・将来のキャリア形成（プロ選手・トレーナー・指導者等）を考える契機に。
- 地域クラブが“未来の学びの場”に進化（佐賀モデルの考え方に合致）
 - ・学校部活動では限界のあった専門性・教材・映像資源が活用可能
 - ・子どもが自分の動画を分析し、トレーニングメニューを選び、修正・再挑戦。
- 指導者登録・入会・謝金支払・保険等の事務をプロチームアカデミーが一括管理（指導者の負担軽減）
- 冬季の平日・日没後の学校体育施設（体育館）の有効活用

今後の取組における課題

- 学校現場の理解
 - ・地域クラブ移行への理解度に差があり、説明責任が特定の管理職・教員に偏る状況が発生。
 - ・学校部活を母体とする地域クラブの学校施設・備品利用ルールの確立
- 地域クラブ活動継続に係る費用負担の整理。
 - ・「受益者負担が増える」「他校の部活が移行していない」などの保護者不安。
 - ・学校部活動の「拠点校化」以上の移行が進みにくい。
- ICT活用に関する保護者・生徒のリテラシー差の解消。



学校体育施設利用に係る覚書（抜粋）

課題への対応方針

- 市教委・学校・保護者へ、費用構造・安全管理・指導の質向上など、地域クラブ化のメリットを整理して発信。
- AIスマートコーチ等のICT活用も参考に、学校部活動とは異なる独自価値（自律的学習・質の保障）を明確にする。
- 他校のバスケ部との合同化・広域化により、「地域クラブとしてのまとまり」を強化する。

実証内容と成果

参考資料



【スポーツ練習アプリを活用し、個人練習メニューを選択】



【運営団体からの貸与ビブスを着用して大会出場】



スポーツ練習アプリを活用し、トッププレーヤーのお手本動画と比較】



【プロバスケットチームユースコーチ（元プロ選手）による指導】

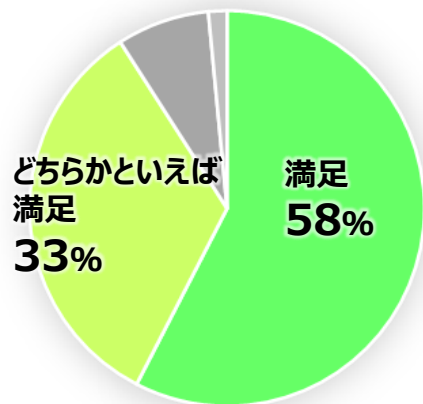
実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

R7.12月実施

●アンケート結果（中学生n=66、保護者n=32、指導者n=10、教員n=6）

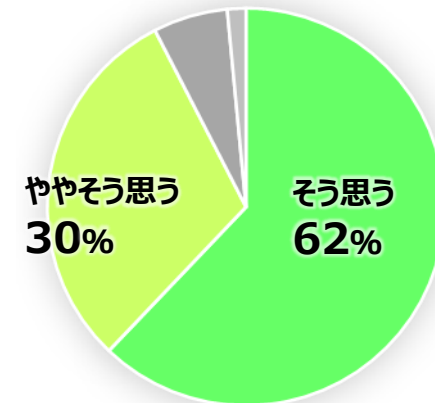
Q.地域クラブ活動に対する満足度は？
【中学生】



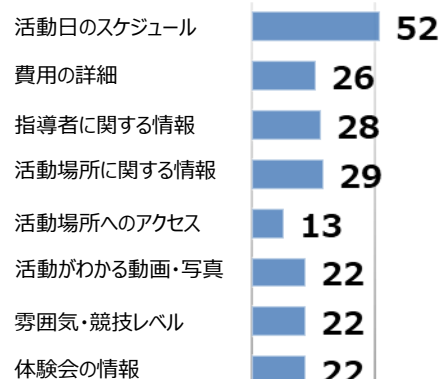
Q.現在の地域クラブを継続したいと思うか？
【中学生】



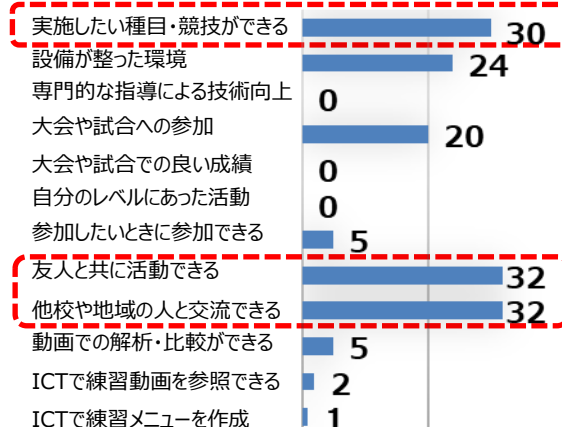
Q.現在の地域クラブを友人に勧たいと思うか？
【中学生】



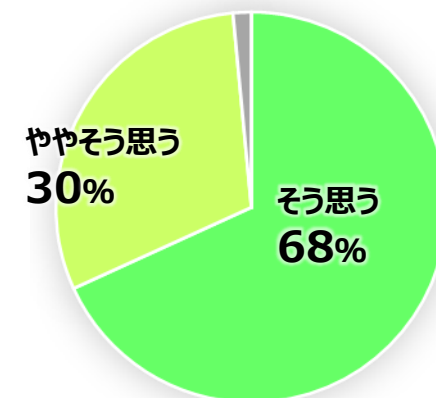
Q.地域クラブ活動を選ぶ上で必要な情報は？【中学生】（複数回答）



Q.学校部活動とは別で地域クラブ活動に参加できてよかったことは？【中学生】（複数回答）



Q. 中学卒業後もスポーツを継続したいと思うか？
【中学生】



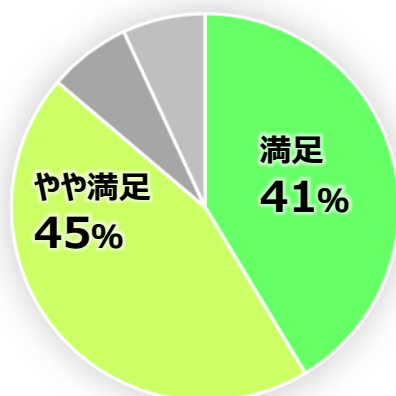
実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

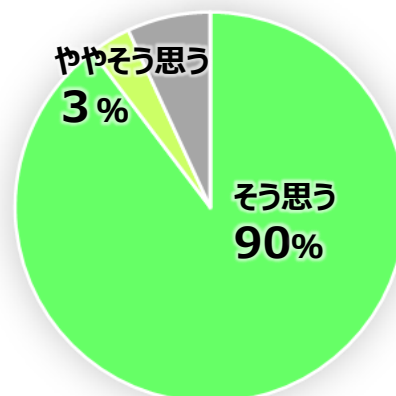
R7.12月実施

●アンケート結果（中学生n=66、保護者n=32、指導者n=10、教員n=6）

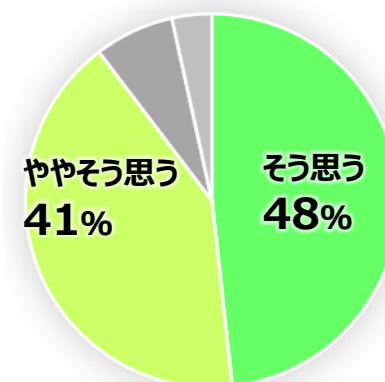
Q.地域クラブ活動に対する満足度は？
【保護者】



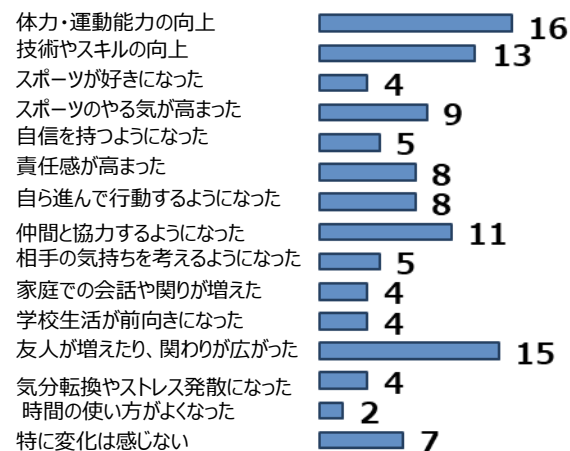
Q.現在の地域クラブに継続参加させたいか？
【保護者】



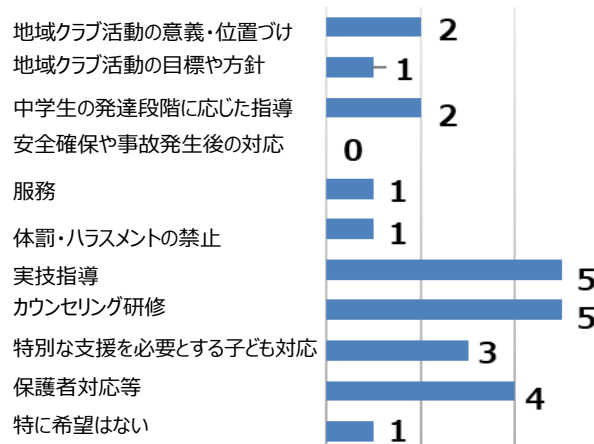
Q.現在の地域クラブを友人に勧誘したいと思うか？
【保護者】



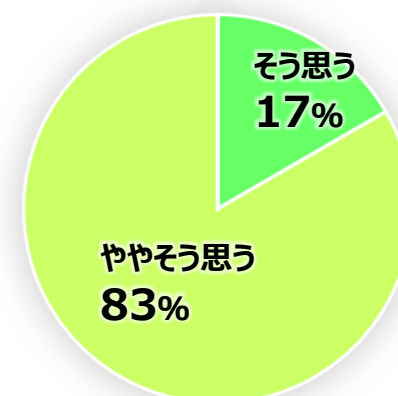
Q.地域クラブ活動に参加して、お子さんにどのような良い変化があったか？【保護者】（複数回答）



Q.今後受講したい研修は？【指導者】
（複数回答）



Q.今後も地域クラブ活動での指導に携わりたいか？
【兼職教員】



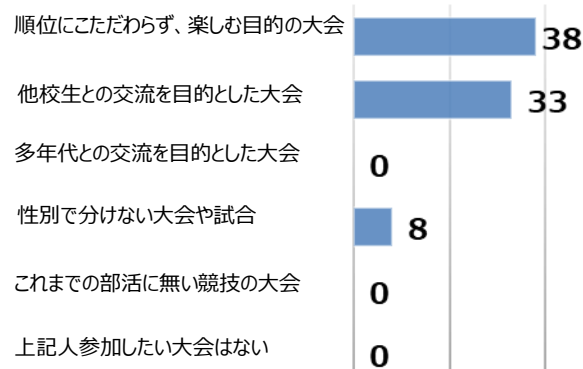
実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

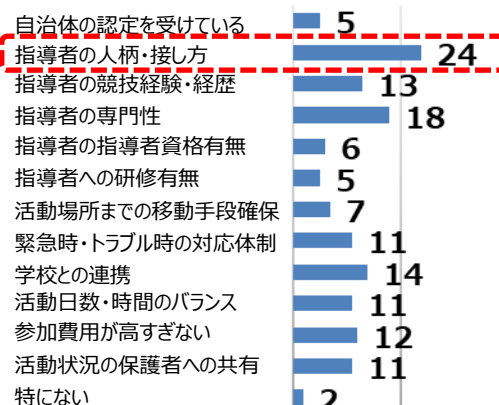
R7.12月実施

●アンケート結果（中学生n=66、保護者n=32、指導者n=10、教員n=6）

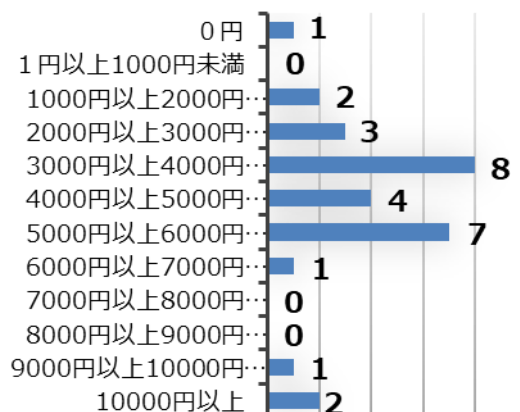
Q.以下のような大会があった場合、参加してみたいものは？【中学生】



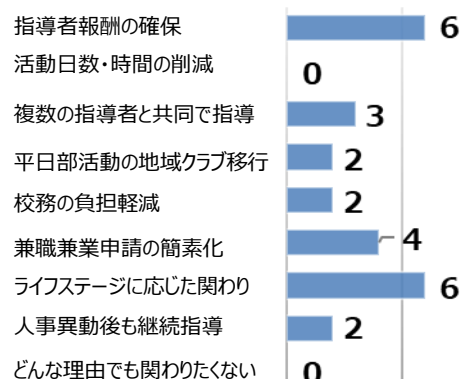
Q.お子さんが地域クラブを選ぶ際に重要だと思う要件は？【保護者】（複数回答）



Q.地域クラブ活動に支払う会費（月額）として、妥当だと感じる金額は？【保護者】



Q.地域クラブ活動で指導に携わりたくするためには、どのような要素が必要か？【教員】（複数回答）



●参加者/関係者の声

参加者/中学生

- ・部活動が短い冬季に、平日1日でもまとまった時間を確保できるのはありがたい
- ・顧問の先生以外にも、いろんな人から指導をしてもらえて視野が広がった

参加者/保護者

- ・専門的な指導以外に体づくりや多様な練習メニュー等も教えてもらえてよかった
- ・ICTを使って保護者にも情報発信してもらえたので活動の様子がよくわかった

参加者/指導者・スタッフ

- ・地域クラブ活動に対する関係者の理解が進んだ
- ・謝金支払や財務関係の事務作業は、専属スタッフがいないと本業の片手間では難しい
- ・兼職教員がいることで学校との連絡がスムーズ

参加者/教員

- ・校内の部活動顧問が輪番制で休みやすくなった
- ・部活動顧問が従事できないときも、地域クラブとしての活動ができ、子どもたちにとってもプラスであった

上記は、現地でのヒアリングをもとに、主な意見を要約したもの